

2025年1月6日  
一般社団法人日本鉄鋼連盟  
標準化センター事務局

## 2024年度 第2回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日時： 2024年12月20日（金）14:00～17:00
2. 場所： ハイブリッド会議（対面：鉄鋼会館900室＋Web：Teams）
3. 出席者：（敬称略）
- 委員長：榎（東京大学）
- 副委員長：緒形\*（物質・材料研究機構）、田中（東京理科大学）、藤原（EMF 応用計測）
- 委員：相川\*（日本水道協会）、荒井\*（日本製鉄）、沖\*（建築研究所）、  
金岡\*（住友電工ハードメタル）、栗原（日本伸銅協会）、近藤\*（日産自動車）、  
酒井\*（神戸製鋼所）、塩田\*（IHI）、種物谷\*（高圧ガス保安協会）、  
鈴木（一）\*（日本鋼構造協会）、鈴木（覚）\*（日本アルミニウム協会）、  
千葉（関西学院大学）、辻村\*（日本金属継手協会）、堤\*（日本規格協会）、  
中澤（JFEスチール）、林（元理化学研究所）、藤井\*（日本試験機工業会）、  
藤田（北海道大学）、八木\*（大同特殊鋼）、山口（九州工業大学）  
（委員長・副委員長・委員計24名、\*Web参加）
- 欠席：熊井（日本検査キューエイ）、桑原（東京農工大学）、富山（土木研究所）、  
蓮井（日鉄SGワイヤ）、松本（日本海事協会）、山田（東京大学）
- 幹事：松本（鉄鋼連盟）
- 関係者：菊田（経済産業省）（関係者計1名）
- 事務局：越川・井田・齊藤・玉田・田谷・山本（鉄鋼連盟）（事務局計6名）

## 4. 議題及び配布資料

- 1) 報告事項
- 資料1-1：2024年度 第2回鋼材規格三者委員会名簿
- 資料1-2：2024年度 第1回鋼材規格三者委員会議事録
- 資料24：ISO/TC 17 及び ISO/TC 17/AG 活動報告
- 資料25：製品規格における G 0404（一般受渡条件）の引用方法見直しについて
- 2) 審議事項
- 資料23：引張試験特性のSI単位系変更について
- 3) JIS規格審議
- <改正>
- 資料2：JIS G 0417 鉄及び鋼－化学成分定量用試料の採取及び調製
- 資料3：JIS G 3116 高圧ガス容器用鋼板及び鋼帯
- 資料4：JIS G 3193 熱間圧延鋼板及び鋼帯の形状、寸法、質量及びその許容差
- 資料5：JIS G 0557 鋼の浸炭硬化層深さ測定方法
- 資料6：JIS G 0559 鋼の炎焼入及び高周波焼入硬化層深さ測定方法
- 資料7：JIS G 3112 鉄筋コンクリート用棒鋼

資料 8 : JIS G 4805 高炭素クロム軸受鋼鋼材  
資料 9 : JIS G 3113 自動車構造用熱間圧延鋼板及び鋼帯  
資料 10 : JIS G 3132 鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯  
資料 11 : JIS G 3134 自動車用加工性熱間圧延高張力鋼板及び鋼帯  
資料 12 : JIS G 3135 自動車用加工性冷間圧延高張力鋼板及び鋼帯  
資料 13 : JIS G 3441 機械構造用合金鋼鋼管  
資料 14 : JIS G 3444 一般構造用炭素鋼鋼管  
資料 15 : JIS G 3445 機械構造用炭素鋼鋼管  
資料 16 : JIS G 3466 一般構造用角形鋼管  
資料 17 : JIS G 1219 鉄及び鋼－銅定量方法－吸光光度法

< 制定 >

資料 18 : JIS G 1221-1 鉄及び鋼－バナジウム定量方法  
－第 1 部 : 過マンガン酸カリウム酸化硫酸アンモニウム鉄 (II) 滴定法  
資料 19 : JIS G 1221-2 鉄及び鋼－バナジウム定量方法  
－第 2 部 : N-ベンゾイル-N-フェニルヒドロキシルアミン抽出分離  
吸光光度法

< 廃止 >

資料 20 : JIS G 1221 鉄及び鋼－バナジウム定量方法

4) 定期見直し案の審議

資料 21 : 2025 年度 JIS 定期見直し調査について

5) 事前調査表の審議

資料 22 : 2025 年度 JIS 事前調査表について

## 5. 議事内容及び結果

委員・関係者の紹介、議題・資料の確認及び榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

- 5.1** 幹事から、委員会名簿及び 2024 年度第 1 回鋼材規格三者委員会の議事録が報告された。前回の議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。
- 5.2** 事務局から、引張試験特性の SI 単位系変更について、F01.00 基本規格分科会で審議され、現行規格のまま (N/mm<sup>2</sup> の使用継続) とする方針が報告された。榎委員長から、論文などでは MPa が主流であり、古い決まりにしばられる必要はないのでは、とのコメントがあった。事務局及び栗原委員より、強制法規、図面、検査証明書発行システムなどの変更を伴い、影響範囲が極めて大きいため、関係省庁のご指導の下、国内産業界全てが統一して変更する必要があることが説明され、現行規格のままとする方針は承認された。
- 5.3** JIS 規格審議案件の改正 16 件、制定 2 件及び廃止 1 件について、事務局から内容が説明され、以下の質疑応答があった。
- 1) 田中副委員長から、資料 5 及び資料 6 の主査調整案における硝酸試薬濃度に関し、JIS K 8541 [硝酸 (試薬)] に規定がない 62% を選定した理由について、質問があった。担当主査から、従来規定内容まま、かつ他 JIS でも使用している濃度を選定しており、規定文を“62%硝酸と同等のもの”と濃度範囲を含む内容としたことが説明された。62% の見直し検討は、次回改正時の検討課題とした。
  - 2) 資料 14 の主査調整案では、“表面手入れ”が繰り返しとなる原案のままとしていたが、栗

原委員から、繰り返しを避けた規定文案が提案され、採用された。また、藤原副委員長から、“表面手入れ”と“手入れ”の用語の使い分けについて質問があり、“表面手入れ”の用語を見直すことも検討されたが、33件のJISにおいて使用中であり、変更の影響が大きいため、今後の検討課題とした。

- 3) 藤田委員から、資料18の飽和カロメル電極について、環境規制を反映して将来的に変更していくべきとのコメントがあった。担当主査から、飽和カロメル電極は、対応国際規格も規定しており、市場にても使用中であることが説明され、次回改正時の検討課題とした。

上記の他、改正・制定JIS案は、規格ごとのコメントテンプレートに記載されたとおり、修正することとし、改正16件、制定2件及び廃止1件は、いずれも承認された。

- 5.4** 定期見直し案(46件)の審議について、幹事から内容が説明され、いずれも原案のとおり承認された。また、意見受付の実施の結果、産業標準作成委員会でのJISの見直しの議決結果に変更が生じない場合には、再審議しない方針を決定した。
- 5.5** 2025年度案件の事前調査表(制定7件、改正19件、廃止2件)について、幹事から内容が説明され、いずれも原案のとおり承認された。なお、2025年度は、例年どおりに2回の鋼材規格三者委員会(7月及び12月)を開催し、上記案件を按分して審議することが確認された。林委員から、鋼管のへん平試験及び押し広げ試験に関するJIS制定について質問があり、制定後は鋼管JISで順次引用していく方針が確認された。
- 5.6** 事務局から、ISO/TC 17(鋼)及びISO/TC 17/AG(アドバイザリーグループ)の活動状況について、報告された。榎委員長から、中国が規格制定を提案した3件(鉄鋼分野のスマート製造に関するガイドライン、鉄鋼スラグの水膨張試験方法、リサイクル可能な鉄鋼原料)への対応について質問があった。事務局から、それぞれ関連する鉄連関係部門(AI特別グループ、技術・環境部など)及び外部関係者と連携し、対応を協議していることが説明された。
- 5.7** 幹事から、2025年度第1回鋼材規格三者委員会は、2025年7月23日(水)午後、ハイブリッド会議として開催することが報告された。

以上